

私には夢がある いくつか困っている子供達のために 役立ちたい！インターナショナリストとして

同志社香里中学校1年 中山めぐ

私には夢があります。大人になったらユニセフで働きたいと思っています。ユニセフは、国連児童基金、1946年設立され、初め戦災国の児童の救済・福祉・健康改善を目的とし、食品・衣服・薬品を児童・妊産婦に供給しています。ユニセフは世界中で活動しています。私はそんなユニセフで働き、一人の人間として社会の役に立つ生き方をしたいと考えています。

私の母は通訳をしています。通訳の仕事は大変ですが、色々な人々に出会え、色々な仕事を知ることが出来るので、母はいつも生き生きと楽しそうに仕事をしています。

日本語を話す時の母と英語を話す時の母は少し違います。どこがどう違うのかと聞かれると少し困るのですが、少し違うのです。最近、ようやくその違いが私にも分かってきました。英語を話す時、母はハッキリとイエスとノーを相手に伝えているのです。でも日本語を話す時は、断る時もハッキリとノーと伝えず、あるパターンのような言葉の言いまわしで伝えているのです。常に相手の気持ちを察しながら、言葉を選んでていねいに断っているのです。英語の時は、相手の気持ちを考えてからノーと言っているのではなく、自分の気持ちをストレートに、まず伝えているのですが、けっしてノーと言われた相手も気分を悪くせず、つきあえているのです。私は、母になぜこんなに違うのかと聞きました。母は言語はその国々の文化に支えられ、その国の人々の気持ちを伝える手段として使われてきたものだから、文化を知らなければ、本当の意味でのコミュニケーションは取れないと教えてくれました。私はラッキーにも、母の友人関係や仕事関係を通じて、海外に行く事がよくあります。そのおかげで、海外の文化にも触れるチャンスが多くあり、人と人とのつながりを深く結びつけるには、何が大切かという事に対して、いつも意識しながら言葉を学んでいます。そして、その結果、私の頭の中にはひとつの夢が浮かびあがってきたのです。将来、国際社会で国際人として働きたいと思い出したのです。

私は又、人間が大好きです。特に子供が大好きです。ですから、子供達に接する仕事を、していきたいとも考えていました。子供のために何か出きて、そして国際社会で働ける仕事はないかと考えた時に、私の頭の中で結びついたのは、ユニセフの職員として働くという事だったのです。

私はユニセフの職員になるために、色々な事を勉強しなければならないと思っています。ただ単に英語が話せて、子供が好きだけではダメだと知っています。専門的な知識を持たなければならないと思っています。私は医療の勉強をしたいと考えています。薬の勉強もしたいと考えています。そして、そういった専門的な知識を持った上で、私の夢を実現させたいと考えています。

私達は社会のために、子供達のために何かをしようと思っても、一人では力不足で何も出来ない事がたくさんあります。でもユニセフのような大きな組織として動けば、それは大きな力となり、色々なことが変えられていくと思います。アフリカや東南アジアを始めとする発展途上国の国々では、私達の生活とはかけはなれた、ひどい生活が子供達に与えられています。食べる物も十分に与えられず、住む場所も無く、道でストリートチルドレンとして暮らしている子供達を時々テレビで見ても、悲しい思いでいます。最近では、新聞等の広告に、少しのお金でたくさんの子供達が予防接種が受けれるという募金のお願いが見られます。私が実際大人になるには、まだまだ時間がかかります。13才の私が今でもできる国際支援は、私達の生活の中にたくさんあると最近意識しています。私の学校でも、ラオスに学校を建てようと募金を集めています。私達の少額の募金なんか役に立つのかなと思いつつも募金していましたが、今はその小さな始まりが大きな実になると感じています。

夢を実現させるためには、少しずつ意識して自分を動かさなければなりません。私の夢は大変大きな物で、実現するにはすごい努力と時間があると思います。私は無理な事はせず、今の生活の中で、私の出来る国際交流を続けていきます。そして、大人になった時、私の夢がどんなふうに大きく成長しているかを楽しみにしたいと思います。私はこの地球上にいるみんなとともに生きていくインターナショナルリストになりたいと思っています。いつか、ユニセフのメンバーとして世界中を飛びまわり、困っている子供達の役に立ちたいと思っています。